

収穫逡増、オートメーションと経済成長、所得分配に関する研究

国際商経学部 大住 康之



キーワード

収穫逡増、オートメーション、資本と労働の代替性、不平等

研究概要

大きく次のような観点から、成長と分配に関する研究を行っています。

1. サービス産業化、特に金融部門や情報関連産業の拡大と所得と資産の一極集中化現象に関する研究。特に巨大企業の出現や資産の自己増殖をもたらすような規模に関して収穫逡増現象が出現するメカニズムの解明。このような収穫逡増現象は成長や分配にどのような影響を及ぼすか。2. オートメーション化、人工知能やロボットの出現による労働から資本への代替作用に関する研究。このような代替作用は成長や分配に如何なる影響を及ぼすか。3. オートメーションや人工知能という新技術の性質に関する研究。新技術がたとえば資本財価格の下落をもたらすという特徴をもつならば、新技術は代替現象や収穫逡増現象にいかなる影響を与え、ひいては成長と所得分配にいかなる影響を及ぼすか。こういったことについて、学外研究者と共同して研究を進めています。

アピールポイント

近年の巨大投資銀行や巨 巨大企業の出現現象や、先進国全体で生じている成長の停滞や所得の不平等化現象に対して、日本経済を中心に成長政策、所得格差是正策等について提言しうる点です。

応用分野

長期的な不況、所得分配、失業に関する日米欧、比較分析。